

米空軍と陸上自衛隊 四半期毎の実動訓練を実施 *USAF and JGSDF conduct quarterly field training*

October 5, 2023

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

8月30日と31日、第374憲兵中隊と陸上自衛隊第1師団第34普通科連隊は、両部隊の即応性を維持し共同相互運用性を向上するための実動訓練を横田基地で実施した。

「ガード・アンド・プロテクト」の協定に基づき、横田基地の憲兵隊は陸上自衛隊と連携を密に取り、両大国の同盟としての防衛目標を達成している。

ガード・アンド・プロテクトは、2003年に日米両政府間で締結された二国間協定で、国内の基地に脅威が迫った際に、陸上自衛隊と航空自衛隊が米軍基地の警備を支援することを定めている。

第374憲兵中隊訓練教官のチャールズ・オコナー軍曹は「陸上自衛隊とは年間を通じてオープンな関係を築いており、会議や訓練などを頻繁に行っている」と述べ、「今年10月に行われる毎年恒例の大規模な演習がその総括となる」と続けた。

今回の訓練では、統合基地防衛作戦センターが、任務志向防護態勢(MOPP)レベル4の安全保障上の脅威にどう対処するかに焦点が当てられた。レベル4では、化学防護服、ブーツ、手袋、そしてガスマスクといった完全装備で臨む。

オコナー軍曹は、「陸自と米軍のMOPPギアは多少異なる。しかし、身を守るコンセプトは同じだ」と述べた。

二国間の事業では、コミュニケーションが鍵となる。その場合、往々にして英語と日本語の言葉の壁が一番の障壁となる。

しかし、「一緒に訓練する機会が多いため、言葉の壁を感じなくなった」とオコナー軍曹は言う。「互いにボディランゲージで疎通を図れるようになったし、陸上自衛隊は通訳官が同行し専門用語の理解を助けている」

基地への脅威に立ち向かう時、それぞれの部隊は作戦の各局面における各々の役割と、担う責任を把握している。この理解が、非常時の実践において両部隊の総合効率と効果を大きく高める。

「パートナーシップは極めて重要だ」と第374憲兵中隊下士官調査担当責任者デビッド・イザギーレ上級曹長は言う。「第34普通科連隊は緊急時に横田で支援を行う日本のカウンターパートだ」「自由で開かれたインド太平洋地域の維持・確保のため、両部隊のチームワークは日米同盟全体において重要である」

